

JABEE (大学院認定・認定調整・一斉審査) について
Accreditation of Master Course Programs and Coordination of Accreditation and
Examination

神戸大学農学部 内 田 一 徳
Kazunori Uchida, Kobe University

1. まえがき

2001年度にJABEE認定が開始されて以来6年目に入り、今年度は最初の認定校3校が初めて継続審査を受けます。過去の認定プログラムの総数は、125教育機関で281プログラムになり、認定プログラムからの修了生の累計は約3万人に到達しました。また、建築・化学分野から強い要請のあったヨーロッパ諸国との国際的同等性やEUボローニャ宣言による大学制度の統一化に対応するため、大学院修士課程の認定システムについて検討が行われています。本文では、こうした動きや2005年度の認定・審査調整委員会で問題となった点などについてご報告します。ご参考になれば幸いです。

2. 2005年度認定審査

JABEEの認定審査は、現在、16技術分野の分野別審査委員会と正会員89専門学協会の協力を得て実施されています。2005年度の認定審査に関しては、3月18-19日と4月8-9日に認定・審査調整委員会が、4月23日に認定委員会が開催され、5月8日開催の理事会を経て、認定プログラムが公表されました。2005年度は、中間審査による認定が59プログラム、新規審査による認定が95プログラムでした。2001年度からの各関連分野の認定プログラム数は、表1に示すとおりです。2005年度の審査員派遣数は416名、うち産業界関係者は206名、オブザーバは264名でした。2005年度に申請されたうちの約4割の教育機関は複数プログラムを申請しており、このうち8機関で同日審査が行われ、今後の審査改善点等の把握に努めました。

2005年度の認定審査過程で問題となった点は、主にサマリーレポート¹⁾として、次のようにまとめられています。2005年度の認定では多くのプログラムでデザイン教育の改善努力が認められた、昨年度に引き続き、基準1・3・5で改善の必要性が指摘されたプログラムが多数あった、認定申請を急ぎすぎたと判断されるプログラムやJABEE申請プログラムへのコース分けが優秀な学生の単なる篩分けになっており問題であると指摘

表 1 2001～2005 年度の各分野における認定プログラム数

関連分野名	2001	2002	2003	2004	2005	合計
化学	2	8	7	7	11	35
機械	0	6	12	15	17	50
材料	0	3	2	3	0	8
地球資源	0	0	4	2	1	7
情報	0	1	4	3	10	18
電気・電子	0	3	7	7	12	29
土木	0	8	11	10	11	40
農業工学	0	2	4	5	4	15
工学(融合複合)	1	1	7	17	16	42
建築	0	0	4	4	5	13
物理・応用物理	0	0	0	1	1	2
経営工学	0	0	2	2	0	4
農学一般	0	0	2	3	2	7
森林	0	0	0	3	0	3
環境工学	0	0	1	1	3	5
生物工学	0	0	0	1	2	3
合 計	3	32	67	84	95	281

されたプログラムもあった。さらに、2005年度の認定・審査調整委員会と認定委員会で問題となった点は、次のような点です。プログラム形式4は私立大学等の必要性から継続するが、学生のプログラム離脱問題や学生のふり分けにならないように注意すること、留年生の取り扱いは入学年度で管理するのではなく、アウトカムズベ－スで管理すること、2006年度から複数分野の受審校に対して同日審査を積極的に進め、審査員数と審査経費負担の軽減に努めること、「工学（融合複合・新領域）関連分野」などの分野別要件の見直しは基準委員会のコントロールで行うこと、などです。

3. 大学院修士課程教育の認定システムの検討

JABEEでは大学院認定委員会を設けて、大学院修士課程の認定システムの検討を進めています。これは、学部卒業生の大学院進学率の増加、一般企業の修士課程修了者の採用比率増加、中教審の大学院教育の実質化要請、EUボローニャ宣言による大学制度の統一化や建築・化学分野から強い要請のあったヨーロッパ諸国との国際的同等性、などに対応することを目的とするものです。JABEEでは2005年12月2・3日の両日、「大学院修士課程教育の認定と優れた教育事例」と題する国際シンポジウム／ワークショップを開催するとともに、農業工学関連分野を含めた一部分野で試行やシミュレーションを実施しました。農業土木学会では、JABEE検討委員会に「大学院認定に関する検討小委員会（後藤章委員長）」を設けて、JABEEが作成した認定基準案をもとに、自己点検書を中心に3大学の認定シミュレーションを実施し、基準案に対する意見を報告しました。こうした結果を経て、JABEEでは今年度中に認定基準案の策定など、本格認定審査に向けたシステム構築を進める予定です。認定委員会では、受審プログラム数が少なく、インセンティブに乏しいとの指摘もあり、学部と一緒に認定するのが適当であるとの意見が出されました。中教審の大学院教育の実質化要請もあるので、これと連動した取り組みが必要ではないかと考えます。

4. あとがき

2001年度にJABEE認定が開始されて以来、5年が経過しましたが、認定教育プログラム担当教員から、「学習負荷が多い割にインセンティブが少なく、学生が来なくなる」との苦情も聞かれます。国際的に見て、日本ほどインセンティブのない国はないのも事実です。韓国では、認定プログラム修了生は採用時に10%高く評価され、JABEE認定修了生にも適用されます。欧米では認定の有無が学科継続や予算に反映されています。日本でも、産業界や文科省への働きかけを強めてインセンティブを増加させなければ、伝統校を含めて今後の認定プログラム数の増加は望めないと考えます。特に、文科省には認定プログラムの教育経費や実験施設経費を積極的に増加させる措置を早く実現させることを強く要求したいと思います。

引用文献： 1) JABEE：2005年度認定審査サマリーレポート（JABEEホームページ）